

累積点数通知効果に関する報告書（昭和 54 年度）

自動車安全運転センターでは、昭和 51 年 1 月から累積点数通知業務を実施しているが、これは、運転免許の停止処分を受ける直前の点数に達した者に対し、その旨を累積点数通知書により通知し、以後の安全運転の励行を促すものである。そこで、累積点数を通知することが交通違反等の抑止にどのような効果を与えているかを知ることを目的に、交通違反等の状況を調査した。

- ① 昭和 53 年 5 月と 6 月中の通知該当者（1 年後に抽出できなかったものを除く）226,482 人（男性 215,555 人、女性 10,927 人）について、通知書を受領した者（通知者）216,768 人と住居不明等で通知書が返送されたもの（非通知者）9,714 人に分けて分析した。通知時点から 1 年間に点数が増えなかった無事故無違反者は、通知者群においては 53.7%であり、非通知者群では 45.5%である。また、免許停止処分に該当する者は通知者群において 33.5%、非通知者群では 40.5%である。同様に免許取消処分に該当する者は、それぞれ 1.5%と 1.8%である。
- ② 通知時点から 1 年間の無事故無違反者率を年令で見ると、男性では年令に比例して増加しているが、女性ではそのような傾向はみられない。通知者と非通知者の無事故無違反者率は、男性では年令が高くなるほどその差は大きくなる。男性と女性では通知効果に差があり、無事故無違反者率は、通知者の方が非通知者より男性で 7.9 ポイント、女性で 10.3 ポイント高い。
- ③ 通知時点以前の 1 年間と以後の 1 年間の違反者率を比べると、前歴 0 者群では反則者が大きく減少し、非反則者（無免許、無資格、反復違反、酒気帯び運転及びその行為によって交通事故を起した者）と反則と非反則を両方とも起した者は若干増加している。前歴 1 回者群では反則者がやや増加しているが、非反則者はやや減少、反則と非反則の両方とも起こした者は大きく減少している。この傾向は通知者、非通知者に共通であり、前歴 0 の者は違反・取締りを受けたことによって、大部分の者が自制していることがうかがわれるとともに、前歴 1 回の者は非反則行為に自作用がみられ、さらに、通知者の方が非通知者に比べてその自制率は大きい。
通知時点から 1 年間の違反者率を前歴別に通知者群と非通知者群で比べると、通知者群の方が前歴 0 者群で 8.9 ポイント、前歴 1 回者群で 6.7 ポイント低い。年令の増加に伴い通知効果は大きく、60 歳以上では 17.7 ポイントの差となる。
- ④ 通知時点以前の 1 年間と以後 1 年間の事故者率を比べ、事故内容別にその差を示すと、その傾向は前歴の有無で相違があり、前歴 0 者群では事故は増加し、前歴 1 回者群では死亡事故を除き減少している。通知時点から 1 年間の事故者率を、前歴別に通知者群と非通知者群で比べると、通知者群の方が前歴 0 者群で 0.05 ポイント、前歴 1 回者群で 0.39 ポイント低い。年令別に事故者率をみると、30 歳代と 60 歳代で通知者群と非通知者群の差が大きく、それぞれ 0.46 ポイント、0.66 ポイントである。
- ⑤ 以上の結果から通知効果を $(A-B)/B \times 100\%$ （ただし、A：通知した場合の比率、B：通知しなかった場合の比率）として算出してまとめると（表）、通知した場合の免許停止者は、通知しなかった場合の免許停止者の 17.3%減になった。同様に免許取消者は 16.7%減、無事故無違反者は 18.0%増、事故者は 9.8%減となる。

表 通知効果

項目 \ 効果		通知した場合(A)	通知しない場合(B)	通知効果
		%	%	$\frac{A-B}{B}$ %
免許停止		33.5	40.5	-17.3
免許取消		1.5	1.8	-16.7
無事故・無違反		53.7	45.5	+18.0
事故	死亡	0.06	0.11	-45.5
	重傷	0.56	0.62	-9.7
	軽傷	0.57	0.59	-3.4
	小計	1.19	1.32	-9.8